

エフゲニー ザラフィアーツ

Evgeny Zarafiants

Piano Recital

2013

4/10 (水) 18:00 開演

京都文化博物館 別館ホール

京都市中京区三条高倉

入場料: 4500 円当日 4000 円前売り

チケット販売・お問い合わせ

ハッタサロン 八田 留美子

TEL 075-691-1272

携帯 090-2590-1029

ベートーヴェン: ピアノソナタ 第1番 f-moll op.2-1

第7番 D-dur op.10-3

ショパン: マズルカ 9曲

No.13 op.17-4 a-moll No.33 op.56-1 H-dur

No.17 op.24-4 b-moll No.41 op.63-3 cis-moll

No.15 op.24-2 C-dur No.35 op.56-3 c-moll

No.43 op.67-2 g-moll No.48 op.68-3 F-dur

No.51 遺作 a-moll

スクリャーピン: 幻想曲 op.28 h-moll

とき
時間を忘れさせる
ピアノスト!

今の時代には珍しく自己主張のはっきりした彼の演奏は、
ますます個性を増すであらう。……宇野功麿(音楽評論家)

主催: ハッタサロン

「時間を忘れさせるピアニスト」宇野功侗（音楽評論家）

いまブックマン社からの依頼でベートーヴェンの曲と演奏について原稿を書いている。

13年春の出版だが、ベートーヴェンのソナタについては、ザラフィアンのCDがある作品は、すべてバックハウスやホロヴィッツなどと並んで彼のディスクが選ばれている。これは大変なことだと思う。

とくにすばらしいのは「月光」で、他の誰よりも表情豊かであり、テンポはいちばん遅い。第2楽章など超スローの最弱音を持続させ、先へ進もうとしない。常に後を振り返り、途中ではなんと立ち止まって思索にふけてしまう。終楽章もスロー・テンポで大シンフォニーのような厚いひびきと拡がりを持ち、スケールが雄大だ。僕は彼の指揮する交響曲を聴きたくなくなってしまった。

そんなザラフィアンが「月光」よりもさらに若書きのベートーヴェン2曲とショパンのマズルカ、スクリャービンの幻想曲という渋いプログラムでリサイタルを開く。いずれも彼が現在最も弾きたい曲ばかりだそうで、そうすると今の時代には珍しく自己主張のはっきりとした彼の演奏には、ますます個性を増すであろう。

ぼくはザラフィアンの空前絶後ともいべきバッハの「24のプレリュード」と雅やかでロマンティックなモーツァルトのCDをこよなく愛する者である。彼のピアノは時間を忘れさせる。そんなザラフィアンのリサイタルが目前に迫っている。

Evgeny Zharafians プロフィール

1959年ロシア共和国のノヴォシビルスクに生まれる。音楽家の両親のもとで育ち、6歳からピアノを父に学び、8歳からはモスクワ音楽院付属中央音楽学校でエレナ・ホヴェンに師事、幼少より天才的な才能を発揮し、1975年にはグネーシン音楽学校に進む。しかし、青年の純粋さゆえに招いた不本意な出来事に遭い、南ウラルのオルスクへと移され、モスクワ音楽院への道が閉ざされるという悲劇を味わっている。1979年にはオルスク音楽院を首席で卒業するが、一切の演奏活動の機会は与えられなかった。

1980年ゴーリキー市のグリーンカ音楽院に再入学、首席卒業後、大学院でも研鑽を重ねている。ここではイリヤ・フリートマンに師事。この間、全ロシアコンクール、ラフマニノフコンクール等で入賞し、ようやくロシア国内でのリサイタル、協奏曲の演奏会を行うようになったが、その素晴らしさが国外に伝えられることはなかった。ザラフィアンの名前がようやく人々に知られるようになったのは、1993年ポゴレリッチ国際コンクール（アメリカのカリフォルニア州パサデナ）で第2位となった以降のこと。以来住居はクロアチア共和国に構え、ドイツや日本を中心に演奏活動を行っている。日本には1997年秋以来、度々来日し、東京をはじめ全国各地でコンサートや公開講座を行っている。2004年ロシア・フィルハーモニー交響楽団（アレクサンドル・ペデルニコフ指揮）と、チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番を共演する。2005年チェコ・プラハ管弦楽団（武藤英明指揮）と、ベートーヴェンピアノ協奏曲第3番を共演。また、2006年ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団（ユハネス・ヴィルトナー指揮）とラフマニノフピアノ協奏曲第2番を共演し、室内楽の分野でも力量を発揮し、2007年ザグレブ弦楽四重奏団とシューマン、ブラームスのピアノ五重奏も絶賛を浴びた。2007年には来日10周年記念イベントとして東京紀尾井ホールにてリサイタル、スーパーワールドオーケストラとベートーヴェンピアノ協奏曲第3番をはじめ、各地で公演し益々巨匠性を発揮している。2006年より、ザグレブ国立音楽院講師に就任。レコーディングも活発に行っており、日本ではALMレコード（コジマ録音）より15枚のCDをリリース。毎回、レコード芸術（月刊誌）では特選盤をはじめ、高い評価を受けている。さらに、ナクソス(NAXOS)からも3枚のCDをリリースし、特にスクリャービン前奏曲全集の中の「前奏曲第1集」は、イギリス・グラモフォン誌の月間ベスト10に選ばれるなど、常に注目を浴びている。2005年音楽の友での21世紀の名演奏家事典にて、世界の注目されるピアニスト100人に入るなど、ザラフィアンの聴衆の魂を揺さぶる精神性の高い演奏は、毎回大きな感動を与え、熱烈なファンを増やし続けている。

